

## 研究成果等の情報

県の試験研究機関で開発した最新の技術情報を紹介します。

# リンゴ新品種「紅鶴」の育成

### 研究のねらい

本県の観光リンゴ園では、複数の品種を組み合わせることで、8月下旬から12月まで旬のおいしいリンゴを消費者に提供しています。しかし、10月上中旬は県育成品種の端境期となっていました。そこで、10月上中旬に収穫適期となり、外観と食味に優れた新品種「紅鶴」を育成しました。

「紅鶴」を組み合わせることにより、県育成品種のリレー販売が可能となります(図)。

### 技術の特徴

#### 1 育成経過

平成3年春季に県育成品種「陽光」に早生品種の「さんさ」を交配して育成を開始しました。

育種目標として、10月中旬に収穫期となり、外観と食味に優れ、果実が安定して収穫出来る優良系統を選抜しました。

平成25年11月には、育成を終了しました。

平成26年3月、選抜した優良系統に「紅鶴」の名称を付して農林水産省に品種登録申請しました。

本年8月に品種登録となりました(登録番号:第25367号)。

#### 2 品種の特性

(1) 収穫期は10月上中旬で、「あかぎ」と「陽光」の端境期を埋める品種です(図)。

(2) 果皮は鮮やかな赤色で、無袋栽培でもさびなどの果面障害や裂果がなく、美しい外観です(写真)。

(3) 果実の大きさは330g程度と中程度の大きさです。

(4) さわやかな酸味が特徴で、甘味とのバランスが良く、食味に優れます。



写真「紅鶴」の結実状況

### 今後の取り組み

苗木の配布は、平成28年3月から県内のリンゴ生産者を対象に始まりました。当面は、県内に限定した普及を図ります。

既存品種の「あかぎ」と「陽光」の端境期をカバーできる品種であり、中生種の基幹品種として推進していきます。

なお、平成31年頃から、県内のリンゴ園で店頭販売が始まる予定です。

(執筆者: 荒木 智哉)

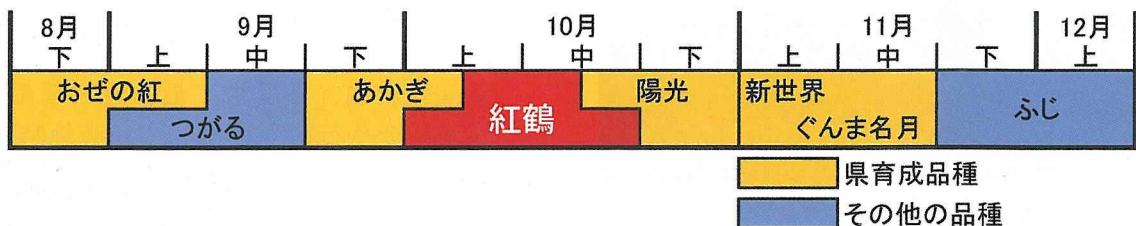


図 群馬県における「紅鶴」導入後の主要品種販売体系